

平成21年度気候講演会（沖縄）の開催について

気象庁は、地球環境問題に関する最新の科学的知見やその対策などについての知識を深めていただくために、「気候講演会」を平成元年から毎年、日本各地で開催しており、今回は那覇市で下記のとおり開催します。

本講演会では、地球温暖化の現状や将来予測について紹介するほか、海洋への影響や、沖縄における地球温暖化防止への取り組みなどについて紹介します。

記

1 期日 : 平成21年11月18日(水) 14時～16時30分(13時30分開場)

2 場所 : おきでんふれあいホール(那覇市旭町114-4)

3 主催 : 気象庁、(財)日本気象協会、(財)気象業務支援センター

4 後援 : 沖縄県、那覇市、沖縄県地球温暖化防止活動推進センター

5 内容

○ タイトル 「ストップ地球温暖化、減らそう温室効果ガス」

○ 講演

・『沖縄における温暖化と異常気象』

沖縄気象台長 加納 裕二

・『温室効果ガス、海もあぶない』

琉球大学理学部教授 山崎 秀雄

・『地球温暖化防止への沖縄の取り組み』

ー私たちがしなければならないことー

沖縄県地球温暖化防止活動推進センター事業統括部長 高平 兼司

6 その他

定員：250名(事前申込制、定員になり次第締め切り)、入場無料

対象：一般

申し込み方法等詳細につきましては、別紙リーフレットをご覧ください。

【本件問い合わせ先】

地球環境・海洋部 地球環境業務課

電話 : 03-3212-8341(内線4225)



気候講演会

平成21年

11月18日

水

14:00~16:30
(開場13:30)

入場無料
定員250名

おきでんふれあいホール

(おきでん那覇ビル内 モノレール「旭橋」駅・「壺川」駅から徒歩5分)

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

講演

- 沖縄における温暖化と異常気象 ……加納裕二(沖縄気象台長)
- 温室効果ガス、海もあぶない ……山崎秀雄(琉球大学教授)
- 地球温暖化防止への沖縄の取り組み - 私たちがしなければならないこと -
…高平兼司(沖縄県地球温暖化防止活動推進センター事業統括部長)

※参加申込は裏面をご覧ください。



ストップ地球温暖化、減らそう温室効果ガス

主催: 気象庁、(財)日本気象協会、(財)気象業務支援センター

後援: 沖縄県、那覇市、沖縄県地球温暖化防止活動推進センター

講演概要

司会：高 英子

沖縄における温暖化と異常気象

沖縄気象台長 加納 裕二

1890年に沖縄県立那覇二等測候所が開設され沖縄における近代的な気象観測が始まってから来年で120年となります。諸先輩の地道な観測の記録により気候の変化が詳細に分析できるようになり、このたび沖縄気象台は福岡管区気象台および長崎海洋気象台と共同で「異常気象レポート九州・山口県・沖縄版2009」を作成し発表しました。その資料などによると、沖縄地方の平均気温は、100年あたり約1.1℃の昇温傾向があることがわかりました。周辺の海面水温にも同程度かやや小さい0.7～1.1℃の上昇が示されています。台風の発生数、接近数については、この50年以上明瞭な長期的傾向は見られていません。約100年後のコンピュータによる予測によると、年平均気温は沖縄周辺では2℃程度上昇し、さらに強い台風の発生が増えるとの結果が得られています。これら沖縄における温暖化と異常気象について世界や我が国全体との比較も交えつつ説明します。

温室効果ガス、海もあぶない

琉球大学教授 山崎 秀雄

温室効果ガスには、二酸化炭素やメタンなどの様々な種類のガスがあります。これらのガスは、大気平均気温を保ち、地球上に生命が繁栄できる環境づくりに役立っています。しかし、人間が大量の二酸化炭素を放出してしまった結果、地球温暖化の原因となる悪玉ガスに変わってしまいました。このまま放置しておくと、大規模な気候変動によって自然の生態系は崩れ、人間が住めない地球になってしまうかもしれません。気温が上昇すると海の水温も上がります。海水温が上がると、「サンゴの白化」が起きやすくなり、サンゴ礁の生態系は壊れてしまいます。最近、大気中の二酸化炭素が増えることによって、海が酸っぱくなっていることが指摘されています。この「海洋酸性化」問題は、温室効果ガスの新たな脅威として世界中で研究が始まっています。ここでは、サンゴを例に、地球温暖化の生物への影響と、海洋酸性化が引き起こす新たな問題について解説します。

地球温暖化防止への沖縄の取り組み — 私たちがしなければならないこと —

沖縄県地球温暖化防止活動推進センター事業統括部長 高平 兼司

地球温暖化防止は待ったなしである。鳩山新政権でもポスト京都議定書として、我が国の温室効果ガス排出量を2020年までに1990年度値の25%削減を世界に向けて約束した。極めて厳しい目標値である。しかし、地球環境を保全する上で達成しなければならない値でもある。沖縄県では、特に民生系からの排出量が増加している中、どのような心構えでどのようなことを行わなければならないのか、一つのシナリオを考えてみた。まずは自分たちが排出している温室効果ガス、とりわけ二酸化炭素量を把握すること（環境家計簿のチェック）、そして実践、さらに削減できた量をチェックする。その実践例を紹介する。一方で、節電、節水、省エネ、ごみ減量だけでは削減に限界が感じられる。やはり「環境保全への投資」も視野に入れなければならない。このときのポイントはどこにあるだろう。家庭・事業所での取り組みを考えてみよう。

申込方法

氏名、電話番号、参加人数を下記申込先までお知らせ下さい。

申込・お問合わせ先

・参加申込・お問合わせ先

沖縄気象台業務課気候・調査室

TEL 098-833-2186 (平日08:30~17:00)

FAX 098-836-8081

E-mail okinawa@jma-net.go.jp

<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/h21kouen/oubu.htm>

・お問合わせ先

気象庁地球環境・海洋部地球環境業務課

TEL 03-3212-8341 内線4225



気候講演会 — ストップ地球温暖化、減らそう温室効果ガス — 申込用紙(FAX用)

お名前: _____ 連絡先電話番号: _____

参加人数: _____

※切り取らずにそのまま送信してください。FAX 098-836-8081 (沖縄気象台業務課)

※ご来場の際は、バス、タクシー、モノレールなどの公共交通機関をご利用願います。

